

アレルギー性気道疾患による咳嗽の鑑別に関する取り組み

片山 伸幸, 中村 暁子

やわたメディカルセンター

【背景】 遷延性・慢性咳嗽の原因疾患として、気管支喘息、咳喘息、アトピー咳嗽は重要であるが、その鑑別は必ずしも容易ではない。各疾患の病態生理の違いは明らかになってきているが、初診時に精密検査を行うことは難しく、通常は治療的診断が行われている。しかし、各疾患による咳嗽の臨床的な特徴を見出せば、早期に診断が可能になるのではないかと考えた。

【目的】 アレルギー性気道疾患による遷延性、慢性咳嗽において、原因疾患を比較的簡便に鑑別できる方法を探索する。

【方法】 遷延性・慢性咳嗽にて受診した初診患者で呼吸機能検査、呼気一酸化窒素（FeNO）検査、カプサイシン咳感受性試験を施行した。問診で、咳が起こる自覚部位（胸か喉か）を確認し、聴診、look up test、強制呼気誘発咳嗽試験を行い、アレルギー性気道疾患が原因と診断した患者での検討を行った。

【結果】 FeNOは気管支喘息と咳喘息で上昇していた。アトピー咳嗽ではカプサイシン咳感受性の亢進が認められた。Look up testは気管支喘息では全例陰性だった。胸から咳がわいてくると自覚した場合、気管支喘息である確率が高かった。強制呼気誘発咳嗽は気管支喘息でのみ確認された。

【結論】 アレルギー性気道疾患の中で、喘息による咳のみが生理学的特徴が大きく異なることが分かった。FeNO、カプサイシン咳感受性検査に加えて詳細な問診、Look up test、強制呼気誘発咳嗽試験などを行うことで遷延性・慢性咳嗽の診断を早期に行うことが可能になると考えられる。

【キーワード】 自覚症状、FeNO、look up test、強制呼気誘発咳嗽